

S部門

(肢体不自由教育部門)

分類されない各種の教材

教員作成教材ガイド



平成28年度

東京都立鹿本学園

目次

- 「弾き鈴箱」
- 「スヌーズレンルーム」
- 「マトリックスの理解」
- 「ひまわり」
- 「かえるのがっしょうの楽譜」
- 「魚をたくさん釣るためには？」
- 「世界の階段を昇ろう」
- 「プレイバルーン」
- 「ミラクルバルーン」
- 「目標達成カード」

弾き鈴箱

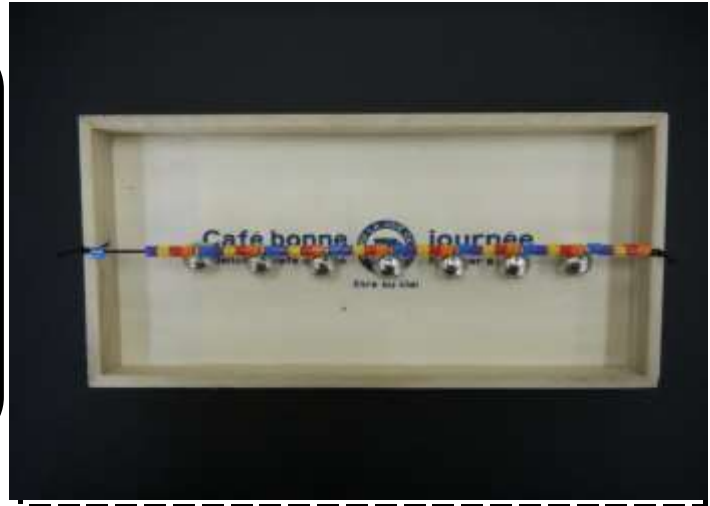
～簡単な動作で楽しく鈴を鳴らそう～

対象児童・生徒

- ・自分が指や手で働きかけたことで、鈴が鳴ることを楽しめるグループの児童生徒が対象です。
- ・簡単な動作でかわいらしい鈴の音になる仕掛けになっています。
- ・目でも見やすいようにゴムの間をビーズで飾りました。

S 高1 A①グループ

教育課程



ねらい

- ・簡単な動作で楽器を鳴らすことを狙っています。自分の手や指で働きかけて初めて音が鳴ることが面白いと思えるようになってほしいです。
- ・初めは単体で鳴らせるようになってほしい。次いで好きな音楽と一緒に鳴らせるようになってほしい。

その他

- ・軽い木箱の側面にきりで穴をあけておく。
- ・ゴム紐に鈴とビーズを交互に通していく。
- ・木箱の穴に結び付ける。底が動かないように滑り止めを敷いて使用するとよい。握りこみの激しい児童生徒はシリコンのばちを使って鳴らしてもよい。

教材の使い方 (指導方法)

- ・音楽の授業で取り組む。
- ・個別で手と目の対応動作の獲得に使う。
- ①音楽の授業では慣れるまでは音だけを鳴らせるように一人ひとり抽出で行う。
- ②音楽を聴いていると手元がおろそかになる児童生徒が多いので初めは鈴箱だけで取り組ませる。
- ③動きの出にくい児童生徒はしっかり待って、児童生徒が鳴らしたことに気が付くように使わせる。
- ④自分が鳴らしていることが理解できる児童生徒には、軽快なリズムの楽しい曲などを選んで、音と一緒に鳴らせるようにする。
- ⑤手を使っているときはしっかり鈴箱を正中でとらえられるように見えるところにセッティングする。
- ⑥姿勢を保つのが難しいような椅子には座らせず、自由に手を使えるように座位保持装置に乗っての操作が望ましい。

スヌーズレン・ルーム

対象児童・生徒

児童・生徒のみならず、来室するすべての人にとって心地の良い空間を提供します。



ねらい

スヌーズレンの目的

- ①リラクゼーション:適切な刺激と居心地のよい環境の提供
- ②新しい刺激の探索:さまざまな感覚刺激がその人にあった働きかけを可能とし、快く受け取られる
- ③活性化:受け身の状態から脱することができる
- ④コミュニケーション:「心地よさ」を媒介としながら共感関係を気づき、コミュニケーションを促す
- ⑤余暇:個々に合わせた余暇を過ごす方法となりうる

第二自立活動室の中は2つに仕切られ、それぞれ「空」と「海」をテーマにした空間になっています。写真は「海」のゾーンです。

仰向けに寝ても楽しめるように、天井に手作りのオーナメントを吊るしています。プロジェクターの映像は、天井から吊るした布に映し出されます。壁に貼った魚には、ブラックライトを当てて光るように加工をしました。

床には、頑丈なビニール袋を三層にしてつくったお湯玉をころがし、その温もりや感触を楽しんだり、水を通して光を見たりすることができます。

教材の使い方 (指導方法)

- ・小規模なものは、第二自立活動室に常設されています。
- ・虹輝祭では、第二自立活動室全てをスヌーズレン・ルームに変えます。出番を終えてほっとした児童・生徒、来校された近隣の方々、保護者、先生に大人気です。N部門の児童・生徒にも開放しています。
- ・教材展では、簡易スヌーズレン・ルームを設営します。タープと暗幕を利用した「どこでもスヌーズレン・ルーム」です。体育館でも廊下でも教室でも中庭でも、どこでも設営ができます。
- ・スヌーズレン・ルームには 光、音、におい、振動、温度、触覚などの感覚に関するものを用意しています。これらの感覚を組み合わせて楽しめる空間をつくります。
- ・楽しみ方はその人次第。指導は特にせず、その中にいる人が楽しみを共有できるように心がけています。

～マトリックスの理解～

対象児童・生徒

- ・基礎学習が終わり、文字学習に入る児童を対象としています。
- ・太田ステージⅢ - 1以上
- ・色の分類と形の分類ができる。
- ・同じの概念が分かる。(絵カード同士)

S 小学部 A 学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

- ・マトリックスが完成できる。
- ・色や形以外の2つの属性も言葉で伝える。
- ・縦軸、横軸を言葉で表現することで共通点が分かる。

・一列ずつ取り組むことができるように枠を付け取り外しができるようにした。

・マトリックスの完成のため、マトリックス盤の縦、横の属性(絵)にしたがって盤の上に正しいカードが置けるように枠取りと厚みのある板にした。

・マトリックスは、表札を張り替えることで、いろいろなマトリックスを作ることができるようにした。

教材の使い方 (指導方法)

①マトリックス盤の縦、横の属性(絵)にしたがって盤の上に正しいカードが置けるように見本を示す。

②マトリックス盤に置いたカードを示し「これは何ですか」と児童に聞く

③2つの属性を合わせて言葉で伝えるように促す。
(例: 「赤い傘」「黄色いコップ」「緑の靴」)

④マトリックス盤上のカードの抜けている位置を差し、「ここには何が入りますか」と児童に聞く。

⑤児童が言葉で(2つの属性で答える)答える。

⑥マトリックス盤の軸になるところのカードを抜いて児童に「ここはみんな何ですか」と質問する。

⑦縦軸もしくは横軸の共通点を言葉で答える。



ひまわり ～鑑賞～

対象児童・生徒

・対象物を注視したり、ヘッドコントロールする力を伸ばしたい児童

S 小5 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

・揺れるひまわりに注目したり、手を伸ばしたり、視線を向けたりする。

- ①ポリエステルオーガンジー素材の布に等間隔に穴を開ける。
- ②100円均一の造花のひまわり（細い針金についているものを選ぶのがポイント）を逆さにして穴に吊るす。
- ③ひまわりの顔は児童が見やすい方向に調整する。

教材の使い方 (指導方法)

- ・音楽の授業の最後にクールダウンする場面で使います。
- ・BGMはクラシック「パッフェルベルのカノン」のCDを使いました。
- ・一人一人が見やすい角度、距離に注意しながら順番に呈示しました。

☆仰臥位でのリラックスタイムでも、ひまわりを見たり触れたりして、目と手の協応課題の自習にもなりました。



かえるのがっしょうの楽譜 ～合奏～

対象児童・生徒

・キーボードやマリンバを演奏するとき、楽譜を見ながら鍵盤を鳴らします。

S 小3 BC学習グループ

準ずる

教育課程

知的障害を併せ有する児童の



ねらい

・楽譜の音符とキーボード等に貼られたシールを照らし合わせて（マッチングして）演奏する。

- ①エクセルに五線譜を書く。
- ②音階ごとに色分けした「かえるのがっしょう」の音階を入れる。
- ③カラーでプリントアウトする。
- ④紙をラミネーターでラミネートする。

教材の使い方 (指導方法)

- ・音楽の合奏のときに譜面台に楽譜を置き、個人練習したり、合奏したりします。
- ・児童の実態に合わせて、音符を大きくしたり、鍵盤のシールの大きさを調整したりできます。
- ・いろいろな楽曲で活用することができます。

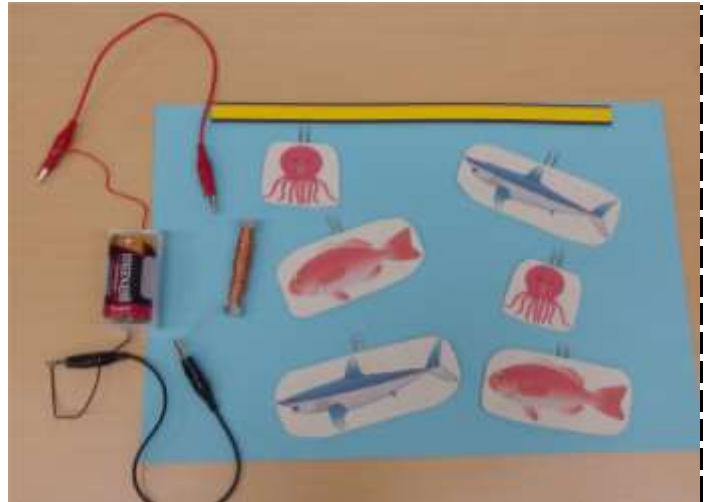


魚をたくさん釣るためには？ ～電磁石を強くしてみよう～

対象児童・生徒

- ・教科書の内容に準じて学習を進めている児童です。
- ・理科の授業で、実験を行うことが好きです。
- ・楽しく取り組めるように、「魚釣りゲーム」にちなんだ教材です。

S 小5 C学習グループ
準ずる 教育課程



ねらい

- ・「魚を釣りたい」という状況から、電磁石は流れる電流の強さやコイルの巻き数を増やすことで強くなることを様々な条件を試しながら、理解す

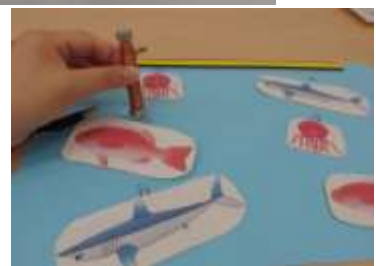
- 準備するもの
乾電池、ワニ口クリップ、エナメル線、鉄釘、真鍮・銅・ステンレスなどの鉄以外の釘、クリップをつけた様々な種類の魚

●作り方

- ①釘にエナメル線を巻きつける。
- ②乾電池とワニ口クリップをつなげる。
- ③様々な種類の魚にクリップをかける。

教材の使い方 (指導方法)

- ①導入「魚つりをしよう！」
→「なかなか釣れない・・・」
「どうしたらたくさん釣れるのかな？」
- ②発問「どうしたら釣れるようになるかな？」
→「電磁石を強くすればいいんだ！」(児童の気づき)
- ③発問「具体的にどうしたら電磁石は強くなると思う？」
→児童が予想を立てる。
予想される答え→「電池を増やしたらいい」、
「釘にたくさんエナメル線を巻き付ける」



世界の階段を昇ろう！

～階段昇降達成表～

対象児童・生徒

歩行練習等で、目標や見通しをもちながら学習に取り組む生徒を対象に達成表として作成しました。（昨年度のS中3生徒対象）

S 中1 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

- ・階段昇降をすることで、脚力、歩行力の向上、集団で上ることで集団を意識して行動できるようになってほしい。
- ・大きな目標を達成するには、毎日の努力が必要だということを感じながら、達成表を完成する。

その他

- ・世界の階段とその段数を調べ、校内等にある階段の段数と照らし合わせる。1マス25段とし、その日に歩いたマスに達成シールを貼る。
- ・緩やかな階段や、急な階段を探し、さまざまな階段の昇降ができるように工夫した。

教材の使い方 (指導方法)

- ・主に自立活動の時間に歩行練習、階段昇降練習を行う。特設自立活動Bの時間には1対1で指導することができるので、サミットまで校外歩行に毎週でかけて、サミットの階段昇降を行った。
- ・S棟の1～3Fまでの階段は両手でつかめる手すりがあり、安心して昇降できるが、S棟の3Fプールから4Fへ行く階段や、N棟の階段、サミットの階段などは片手でしか手すりを使えない、または手すりのない階段もある。
- ・毎日の階段昇降に目標や見通しをもって取り組めるように、達成してきた記録がわかりやすいようにグラフを作成した。（学校介護職員が作成）
- ・達成表を見て、生徒に励ましの声をかけてくれる人が増え、コミュニケーションを様々な人ととるきっかけとなった。また、応援に入ってくれる普段あまり関わりのない教員とも「今日も世界の階段を昇ろう！」などと会話をするきっかけともなり、関わりを深めることができた。

二人でプレイバルーンをふんわりと！

～小集団でも、ダイナミックな活動を可能にするために～

対象児童・生徒

- ・感覚遊び、集団遊び、
ルールのあるゲーム、
リトミック等、やり方次第で
誰にでも！

S 部門

知的代替の教育課程、及び、自立活動を
主とする教育課程の児童・生徒を中心に
内容によっては準ずる教育課程でも可能



ねらい

- ・児童・生徒数名がすっぽり入れるくらい
の大きな布を、二人でふんわり持ち上げる。

《使って気付いた反省点》

- ・布は軟らかいものの方がよいが、
軟らかすぎると明かりが透けてしま
い、面白さと刺激が半減してしま
う。
→ 程よい張りのある、軟らか
めの布を選ぶとよいです。
濃色のオーガンジーなど。

教材の使い方 (指導方法)

- ・大人二人で向かい合い、左右の持ち手を一本ずつ握る。
- ・二人で合図の言葉がけを行ったり、動かし方を事前に決めたりして上下に動かす。
- ・持ち手の棒は、次の点に留意する。
 - 握りやすく安定感がある太さが良い。重すぎるものは避ける。
 - 扱いやすい適度な長さのものにする。
(周囲の児童・生徒にあたらないよう、調整しやすいものを選ぶ。
本作品は、園芸用の短めの支柱を利用した。)

※とにかく、安全面に配慮すること！

※動かし方の工夫で、さらに活動は広がる!?

ミラクルリボンで心もミラクル？

対象児童・生徒

・提示物に、自ら気づくのが難しい生徒や、興味・関心を寄せるのに時間を要する生徒の心をつかみ、生徒が、自ら視線を寄せ、手を伸ばしたり触れたりすることを期待する教材です。

S 中2 2A①学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

・教材に自ら視線を寄せる。
・教材に自ら手を伸ばしたり触れたりし、音を響かせることができる。

・テープは、カラフルで光沢のある素材を使用し、視線をよりひきつけやすくしました。
・鈴をつけているので、どこかに触れると音が響きます。
・全体の重さが軽いので、力が弱い生徒でも、少しの力で音を出すことができます。
・自発的に、ものを握ったりつかんだりすることが難しい生徒でも、指先や手の平等でふれるだけで、音を響かせることができます。

教材の使い方 (指導方法)

・音楽の授業で、「音を響かせよう」の学習場面で使用します。

①「音を響かせよう」の導入として、生徒が、まずこの教材の全体像に視線を向け、興味・関心を寄せることをねらいとします。

②「これは何だろう？」という気持ちとともに、「触ってみたいな」という気持ちが生じ、自ら手を伸ばそうとしたり、触れようとしたりする気持ちの動きを導きます。

③生徒自身が手を伸ばしたら、生徒自身がこの教材を「どう捉え」「どう触れるか」を考える機会とし、その表情や身体の動きを見守ります。

④「視線を向けることができ、一定時間見続けることができる。」「教材に自分なりにふれられる。」「ふれることによって音を響かせることができる。」「どんな小さな動きでも自発的に行った行為を評価し、フィードバックします。」

目標達成カード ～都営線を制覇しよう～

対象児童・生徒

- ・家族との時間を増やしたい生徒
- ・自分で決めた目標を達成することで、頑張ったことを家族や教員が評価し、成功体験を積み重ねていき自信をつけてほしい生徒

S 中2 B学習グループ

知的障害を併せ有する生徒の教育課程



ねらい

- ・学校だけでなく、家でも頑張って大好きな母にたくさんほめられ、自信をつけてほしい!
- ・自分のできることを進んでやってほしい!
- ・1つずつ積み重ねる大切さに気付いてほしい!

・JRやバス、高速道路など乗り物好きな子に最適で、応用がききます!!
・課題は生徒が下校してから取り組めたり、継続的に行えたり、保護者から頑張っていて欲しい内容にしました! その日のうちに家族と一緒に振り返り、一言コメントをもらうことで自信につながりました!

教材の使い方 (指導方法)

- ①生徒と母と一緒に月ごとの家で頑張る目標を決める。
(1～3つくらい: 生徒に見合った数)
- ②都営〇〇線のどの路線にするか決める。
- ③決めた路線のテーマカラーの画用紙を、A3より一回り大きく切る。
- ④画用紙の縁が折れやすいので、マスキングテープで縁取りする。
- ⑤A3を半分におり、片面に目標プリントを、もう片面に路線図を貼って配布する。

- ・目標をできたか振り返りの欄に記入し、家族に評価してもらう。
- ・達成できたら路線図の駅にシールを張る。

1日1シールGetして路線図を完成をめざそう☆